

# 将来の夢

竹原中学校 三年 島田 月美

みなさんは、夢がありますか。

その夢はずっと変わっていませんか。

私の夢は、医療関係の仕事に就くことです。この夢は、私が保育園に行っていたときから変わっていません。同じ夢をもち続けることは大変です。でも、大切にしてきたこの夢を、これからももち続けたいです。

この夢を目指したのは、ある二人との出会いがあったからです。

一人目は、私のお母さんです。お母さんは、下呂温泉病院で看護師をしています。私がまだ幼いとき、実際に仕事をしているところを見る機会がありました。母が、患者さんにやさしく接している姿や、後輩の看護師の人にも的確なアドバイスをしている姿があって、すごくかっこよかったです。

そして、もう一人は、よく通っていた病院の先生です。先生は、私の話をじっくり聞いてくれただけでなく、風邪をひいたときには、落ち着くようにたくさん声を掛けてくれたことを今でも覚えています。二人との出会いで、こんな場所で働きたいと思うようになりました。

中学二年生のとき、授業で職場体験がありました。どの職場にするか決めるとき、私には夢があったので、迷いなく下呂温泉病院に行きました。そこでは、病棟の仕事をはじめ、部屋の掃除やお風呂の介助など、いろいろな仕事を体験しました。病室に行ったときには、患者さんとたくさんお話して楽しかったし、患者さんも笑顔になってくれました。でも、お風呂の介助など力仕事も多かったし、定期的に患者さんの様子を見て気遣うのは、思った以上に大変でした。実際にやってみて、夢を叶えるのは、本当に大変なことだと、心が重くなった気がしました。

さらに、二〇一九年十二月初旬から新型コロナウイルス感染症が流行し、医療従事者の苦勞がニュースでも次々に報道され、医療の現場は本当に大変だと感じました。でも、それと同時に、医療従事者のみなさんの休みなく患者さんのために働いている姿を見て、大変だけどやりがいがあって社会のためになる仕事だとも感じました。

そんなある日、お母さんが「広報げろ」を見せてくれました。そこには、「下呂市看護師等就学金」という文字がありました。詳しく見ると、「看護師等養成所を卒業後、下呂市立病院等において助産師または看護師として一定期間業務に従事する意思のある者に修学資金の返済が免除される」と書いてありました。これは、下呂市の病院で働いたら、返済するお金が免除されるということです。私は、下呂市に住んで下呂温泉病院で働こうと思っていたので、ぴったりだと思いました。気になったのもっと調べてみると、この制度は地域医療の人材確保を目的に行われていると知りました。実際に下呂温泉病院の医師の数は、平成二十八年に二十一人まで減りました。令和三年には三十人になったのですが、今も募集をしているほど十分足りていないそうです。ニュースでも、医師などの医療従事者の数が減っているのは見ましたが、下呂市でも深刻な問題になっていることを知って、悲しくなりました。だから、下呂市では、修学資金制度をはじめ地域医療でも ICT を活用し、人材不足の中でも地域医療の確保を進めているのだと思います。下呂市のためにも、私は医療関係の仕事に就いて、夢を叶えられるように努力したいと改めて思うことができました。

下呂市でも、日本でも医療従事者が不足している現状があります。私一人だとしてできることは限られていると思いますが、それでも医療関係の仕事に就いて、少しでも下呂市や社会の役に立ちたいです。そして、将来、病院で勤務するときには、きびきびと動いて、たくさんの命を救いたいです。私自身、今はまだすばやく動けないし、体力もないし、足りないことだらけです。だから、今、毎日の登下校で三キロメートルの坂道を歩いて体力をつけています。また、授業中にわからないことを聞いたり、家でも苦手なところを勉強したりしています。それに、男女関係なく誰とでもコミュニケーションをとって、いろいろな人と関わるようにしています。これからも、私は努力し続けます。そして、患者さんの話を聞いて、声掛けができるような優しくテキパキと仕事ができる人になりたいです。私が病院に行ったときに会った先生や看護師さん、お母さんのように。